

1 子犬の適正譲渡

現在、全国の多くの自治体で、子犬の譲渡事業が行われています。

一度は見捨てられた命を、適切に新たな飼い主に託していくという譲渡事業には、市民から多くの期待が寄せられ、また注目もされています。

そこで重要なのは、単に譲渡数を増やすことだけではなく、適正な譲渡を行い、地域の模範的な飼い主を増やし、ひいては行政に引取られる動物の数と、その殺処分数の減少につなげることです。

そのための「子犬の適正譲渡」の基本の流れから、特に配慮してほしいポイント、先進的な事例までを、紹介します。各自治体の実情に合わせて、活用してください。

適正譲渡の流れ

引取り・収容

➡ P03参照

健康チェック・健康管理

➡ P04.05参照

性格チェック

➡ P06.07.08.09参照

飼育中の管理（ケア）

➡ P10.11参照

社会化

➡ P12.13参照

譲渡者の募集

➡ P14.15参照

事前講習会

➡ P16参照

譲渡会

➡ P17参照

マッチング

➡ P18.19参照

譲渡希望者と、譲渡候補動物を的確に組み合わせるのがマッチングです。マッチングは、人と動物双方が幸せ、かつ、快適に暮らすために、また譲渡後のトラブルを防ぐために非常に重要です。動物にもさまざまな性格があり、また譲渡先の家庭もさまざまですから、それぞれに適した組み合わせをするという観点で考えてみてください。たとえば、住宅密集地では吠え声は大きな問題になりますが、山間部では問題になることは少ないかもしれません。毎日1時間以上の散歩が必要なエネルギーな子犬は、高齢者の家庭には向きませんが、アウトドアが大好きな若い家族には最高のパートナーとなるのです。動物の性格を把握し、譲渡希望者の好みやライフスタイルを聞き出す。その上で人と動物を的確に組み合わせることができれば、より良い譲渡になります。



譲渡

譲渡後の飼育支援

➡ P20.21参照

譲渡された後に、どのように動物を飼育するか、飼い主の責任は重大です。地域の模範的な飼い主となり、動物の適正飼養の見本となってもらうためには、折に触れての飼い主への普及啓発が必要です。不妊去勢手術の徹底はもちろん、犬の糞を拾うといったマナー、地域に受け入れられる犬になるためのしつけなど、事前講習会や、譲渡後のしつけ方教室や電話相談などで、何度もこまやかに伝えていきたいと思います。地域に責任ある飼い主が増えれば、それがひいては、収容され殺処分される動物たちの数を減らすことにつながるでしょう。